



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

企業誘致めざし工業用水を3年間無料

高萩・北茨城工業用水企業が発表

先月、高萩・北茨城工業用水企業団（豊田稔企業長）は、中郷、南中郷、および高萩市赤浜の工業団地へ進出する企業にたいして、工業用水の料金を無料にすることを発表しました。

対象となるのは、土地取得から2年以内に操業し、工業用水を使う企業。1トンあたり50円の工業用水料金と、同25円の経営費負担金を3年間無料にするというもので、全国初の試みです。

また、3工業団地は分譲面積118ヘクタール（9区画）が未売却の状態です。09年度の進出企業はゼロ。08年度は3社と分譲契約を結びましたが、まだ操業はされていない状況です。

企業団が小山ダムから取水できる権利は日量最大1万5000トンです。ところが現在、工業用水を使用しているのは12社で約5700トンにすぎません。この打開をはかるため、企業団内で無料化などが昨年からの検討されてきました。

水田に泳ぐ



数年来の名物ともなった磯原町西明寺地区の鯉のぼり

3周年



「ようそろーまつり」から (5/2)

北茨城市がこの4月から実施した重点分野雇用創造事業が、「18才の就職…」と全国紙で大きく紹介されました。掲載紙が他県の知人から市議団

「重点分野雇用創造事業」が全国紙で報道される

この事業のきっかけは、昨年12月の市議会で日本共産党市議団が「市内高

水の無料という思い切った措置については、企業誘致につながることを期待したい」としています。

校生の就職内定率が極めて低い。このままだと卒業した翌日には失業者になってしまう。このような事態だけは政治の力で解決すべきであり、市としても力をつくしてほしい」と述べた質問でした。

記事では介護施設や製造会社で明るく働く18才の男女の様子や同制度を円入りで紹介しています。共産党市議団は今後も市民のくらしを守るために力をつくします。



「日本経済新聞」 (4/26)

日本共産党参院茨城選挙区

稲葉のぶとし

かけある記

連休中も大車輪で

連休中は、恒例の行事が目白押しでした。

4月29日は結城市で“菜の花まつり”に参加し、

「日本の農業と食料をまもるために、農業を国の基幹産業と位置づけ、価格保障と所得補償を組み合わせ、農家のみなさんの生産とくらしをしっかりと支え、後継者育成にも力を入れる農業政策への転換を」と訴えました。

5月1日の“メーデー県中央集会”では、「労働者派遣法は抜け道を許さない抜本的な改正で正社員があたりまえの社会にもどそう」と党県委員会を代表しての来賓あいさつをしたあと、参加者のみなさんと水戸市内をデモ行進。

3日は水戸市で“憲法フェスティ



水戸市の千波湖畔、はなみずき広場にて (5/3)



バル”。会場全体を一回りしてたくさんの方にあいさつ。餅、イワナの塩焼き、クッキー、ノンアルコールビール…たくさんごちそうになりました。農民連のテント前での餅つきでは、多くの人から「もっとやせるくらいがんばって」と激励を受けました。